



琉球の芸能

宮古八重山

ロームシアター京都 シリーズ《継承と創造》

古から現代まで、
おきなわ三地域の舞踊と唄



2022年
2月11日(金) 13時開演 宮古の芸能・八重山の芸能
2月12日(土) 16時開演 琉球の芸能
ロームシアター京都 サウスホール

琉球の芸能

宮古八重山

ロームシアター京都 シリーズ《継承と創造》

古から現代まで、おきなわ三地域の舞踊と唄
ロームシアター京都では、二〇一七年度より実施している「舞台芸術としての伝統芸能」において、雅楽、能楽、文楽、上方舞、歌舞伎舞踊を取り上げてきました。このシリーズの新たな名称を「継承と創造」とし、これまで紹介してきた古典芸能に、地域ごとに継がれてきた民俗(郷土)芸能を加え、伝統芸能の面白さを独自の切り口で紹介していきます。
今回は、各地域の専門家や研究者に監修をお願いし、おきなわ三地域(宮古・八重山・琉球)の舞踊と唄を上演します。時代の波をくぐり、人々の生活や自然と共に育まれてきた身体と声。鳥々で継承され、現代に生きる芸能の姿をお見せします。

宮古 太平に踊ら 大世に舞ら
八重山 世界報 ーばがけーら 島とうとうむー
琉球 冊封宴の歌 ー北宮十二頌曲ー



[公演Webサイト]

2022年
2月11日(金) 13時開演 宮古の芸能・八重山の芸能
2月12日(土) 16時開演 琉球の芸能

- 両日も終演後にアフタートークを行います。
- 11日は「宮古の芸能」と「八重山の芸能」を上演し、12日は「琉球の芸能」を上演します。

ロームシアター京都 サウスホール

チケット料金	1日券		2日間通し券	
	一般	3,500円	一般	6,000円
全席指定	25歳以下	2,000円	25歳以下	3,000円
	18歳以下	1,000円	●18歳以下の2日間通し券は販売いたしません。	

技術監督・コーディネート：關秀哉 (RYU) | 照明：伊藤雅一 (RYU) | 舞台監督：夏目雅也

【チケット情報】
●フレンズ会員・club 会員・京響友の会会員 先行発売：2021年9月10日(金) 10:00～
●一般発売：2021年9月17日(金) 10:00～

【チケット取扱】
●オンラインチケット：24時間購入可 ※要事前登録(無料) <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>
●ロームシアター京都 チケットカウンター：TEL.075-746-3201
●窓口・電話とも10:00～19:00/年中無休 ●臨時休館日を除く
●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため短縮営業する場合あり
●京都コンサートホール チケットカウンター：TEL.075-711-3231
●窓口・電話とも10:00～17:00/第1・3月曜日休館 ●休日の場合は翌日
●チケットぴあ：TEL.0570-02-9999 Pコード：508-200

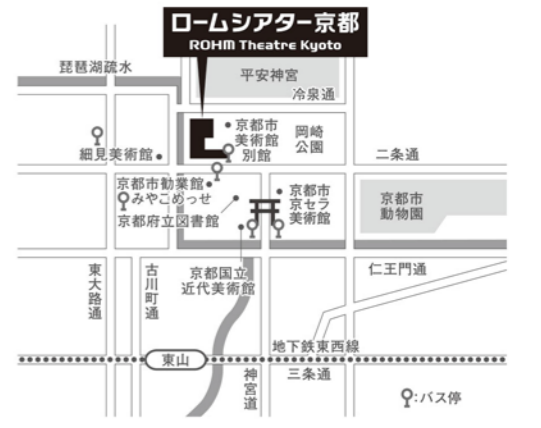
〈那覇公演〉
本公演は、那覇文化芸術劇場 なのはーと(10月31日開館)の「こけら落としシリーズ」としても上演いたします。
詳細は、なのはーとの劇場 WEB サイトをご確認ください。
2022年3月13日(日) 会場：那覇文化芸術劇場 なのはーと 大劇場
NAHA CULTURAL ARTS THEATER NAHAI

主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 後援：沖縄県立芸術大学
企画：ロームシアター京都、那覇文化芸術劇場なのはーと
Photography: Choji Nakahodo | Design: Noe Teruya

〈お問合わせ〉
ロームシアター京都チケットカウンター
TEL: 075-746-3201

●やむを得ない事情により、出演者等が変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
●25歳、18歳以下チケットのご購入者は公演当日、受付にて年齢が確認できる証明書をご提示ください。●託児サービス(要事前予約)の詳細はロームシアター京都 WEB サイトでご確認ください。●未就学児童の入場不可。
●車椅子をご希望の方、介助者同伴の方は、お問合せ先までご連絡ください。
●ご来場前に、ロームシアター京都ウェブサイトにて「ロームシアター京都主催事業公演実施時のご来場に際して」(新型コロナウイルス感染症予防の対策について)を必ずご確認ください。

【アクセス】
●京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
●市バス32・46系統・京都岡崎ループ「岡崎公園ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
●市バス5・86・100系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
●市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分
●100系統・京都岡崎ループは運休しております。詳しくは、京都市交通局 WEB サイトをご覧ください。



〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL: 075-771-6051(代表) 075-746-3201(チケットカウンター)
FAX: 075-746-3366 <https://rohmtheatrekyoto.jp/>
●営業・開館時間は状況により変更することがあります。最新情報はお問合せください。

2月11日(金祝)

宮古

太平に踊ら 大世に舞ら

プログラム

- 一、雨乞いのああく
- 二、神々の舞
- 三、トーガニアヤグ
- 四、多良間世
- 五、大世栄
- 六、家庭和合
- 七、なりやまあやぐ
- 八、棒踊り
- 九、中立ちぬミガガマ
- 十、黒潮の鬨魂
- 十一、豊年世ぬクイチヤー



古からの渴望

宮古島は平坦な地形で、山も川もなく、昔から水不足に悩まされてきた。島の先人たちはその苦しい時代を神への祈りで乗り越えてきた。「祈り」がやがて「唄」になり、「踊り」へ変化し、現在まで受け継がれてきた歴史がある。タイトルにある「太平」は昔の呼び名で「宮古島」のことで、「大世」は「平和な世の中」を意味する。今の平和な暮らしは、先人たちのおかげ。その感謝の気持ちを込めて、これから先の平和を願い、舞台上で表現したい。

プログラムは「水」をテーマに全体を構成している。宮古島の芸能「クイチヤー」は、水不足から生まれた「祈り」が「唄」へ、「踊り」へと変化した象徴である。今回集まった演者の皆さんは、宮古島を代表する方たちばかり。この素晴らしいキャストで、先人から受け継がれてきた「舞踊」「民謡」「古謡」と、今を生きる私たちの新しい創作を共にお見せする。

監修・前里昌吾(宮古島創作芸能団んきやんじゆく)プロデューサー

出演

- 「宮古島創作芸能団んきやんじゆく」
- 友利礼・前里玲毅・久高汰也・友利叶夢・久高歩眸・宮國愛・下地理貴
- 「琉球舞踊研究会・宮古舞踊んまていだの会」
- 亀浜律子・神里桐子・川満香多・瀬名波令奈・砂川徳博・砂川政秀・砂川博仁
- 「久田流家元・久田多嘉子舞踊研究所」
- 久田亜也・与儀優子
- 「唄・三線」
- 與那城美和

2月11日(金祝)

八重山

世界報 ― ばがけーら 島とうとうむ ―

プログラム

- 一、稲方種子アヨウ
- 二、ユングトウ
- 三、キユガビイージラバ
- 四、コイナーユンタ
- 五、アンバルヌミダガーマユンタ

【八重山舞踊】

- 六、鷺ぬ鳥節
- 七、仲良田節
- 八、高那節
- 九、古見ぬ浦節
- 十、みなとーま



世界報を乞う

黒潮が岸辺を洗う、亜熱帯の島・八重山諸島。歴史を紐解けば、ひとびとは、台風や干ばつ、マラリアなどの疫病、時には大津波が襲う自然の猛威とのたたかいの日々であった。また、人頭税や役人の横暴に呻吟した。ひとびとは、荒ぶる神々の魂を鎮めるため、必死に祈り、歌い、踊った。それはひとびとの生活に直結する「世界報」(幸せな世の中)を願うことでもあった。

演目は二部構成で、前半は神前や農作業の場で歌われる古謡を中心に、後半は首里王府の宮廷舞踊の影響を受けて成立した舞踊を中心に構成した。

私たちよりも長く土地と共にある自然や生物への敬意を込め、「ばがけーら 島とうとうむ(私たちはみなずつとシマ/共同体とともにある)」を副題とした。

現在、これらの芸能を生んだ八重山諸島の自然や社会環境は急速に変化している。先人の遺産(精神)を汲み、未来をどう創造するか、考える舞台にしたい。

監修・大田静男(八重山芸能研究者)

出演

- 山里節子・大田静男・廣田律子・大浜賢二
- 「光扇会大浜治子八重山民俗舞踊研究所」
- 大浜治子・金城悦子・新城那緒子・前浜邦子・山根頼子
- 「古見民俗芸能保存会」
- 新盛和枝・小橋川和美・石原孝子・林良子・仲嶺科子・宮里朝枝・前元光代・大底美紀
- 「八重山古典民謡保存会」
- 三線・野原政俊・大浜安則 笛・近藤嘉紀 太鼓・根原格

琉球の御取持

琉球王国の王府で新しい王が任命される際には、明(のち清)の皇帝から冊封使が琉球へ派遣された。冊封使の船は、皇帝からの下賜品として玉御冠(王冠)を携えていたので、御冠船と呼ばれた。琉球では、冊封使が滞在する約半年のあいだ、国をあげて七つの宴をひらいた。このときに演じられた芸能も御冠船または御冠船躍と呼んでいる。

冊封宴とは、第二宴にあたる。首里城正殿前の御庭で冊封使から新しい王を任命する戴冠儀礼を行い、北宮に移って新しい王が正式に正使・副使らと挨拶を交わした。

一八三八年の尚育王(一八三三―一八四七)の冊封時に著された「冠船躍方日記」(一八三九)によれば、北宮では御取持(もてなし)の楽が奏された。その一つが「北宮十二頌曲」である。歌三線四名と胡弓一名による琉球古典音楽の奏楽で、冊封宴だけの特別な琉歌(歌詞)で歌いあげられた。

本来は歌のみであるが、本公演では、新たに現代の琉球舞踊家による作舞を試みた。古の歌詞にのせた音楽と現代の琉球舞踊家による御取持の舞を十分に堪能していただきたい。

監修・遠藤美奈(沖縄県立芸術大学准教授)

出演

- 「舞踊」
- 佐辺良和(作舞)・宮城茂雄(作舞)
- 伊波留依・高里風花・仲嶺夕理彩・宮崎花澄
- 「歌三線」
- 新垣俊道・棚原健太・島袋奈美・親川通
- 「胡弓」
- 森田夏子

2月12日(土)

琉球

冊封宴の歌 ― 北宮十二頌曲 ―

プログラム

- 一、萬壽無疆之頌 かきやてふうふし
- 二、聖化四及之頌 つくてやんふし
- 三、天下太平之頌 恩納ふし
- 四、率土安楽之頌 ちやんなふし
- 五、海不揚波之頌 仲村渠ふし
- 六、封使遠臨之頌 伊江ふし
- 七、内外一視之頌 あけつくてんふし
- 八、禮明法正之頌 平敷ふし
- 九、河山帶礪之頌 仲順ふし
- 十、奉國懽舞之頌 白瀬はり川ふし
- 十一、輪誠仰天之頌 金武ふし
- 十二、球土永安之頌 あかつきふし

